

Check! 大綱質疑・質疑

12月定例会では3会派が大綱質疑、2人が質疑を行いました。

1 議第 三條市手数料条例の一部改正について

Q 改正案と現条例の違いは分譲マンションの規定が追加されたこと。これまでも対象建物はあったはずだ。改正の理由と三條市の実績はどうか。

A 分譲マンションはおののの所有者が維持管理を行うよう定めていたが、これらは管理組合が維持管理を行うのが通例で、そのため法改正が行われた。三條市では分譲マンションに係る申請はない。

5 議第 三條市地域交流センター条例の廃止について

Q 地域住民との廃止についての合意はできているのか。

A 地域自治会、利用している団体と

合意している。



地域交流センター「八木鼻荘」

5 議第 三條市地域交流センター条例の廃止について

Q 少子高齢化が叫ばれる昨今、国勢調査でも65歳から70代は人口が多い。これから必要となっていく施設かと思うが、なぜ利用率等の向上が今後も見込み難いと見込んでいるのか。

A 時代の流れとともに高齢者の日中の過ごし方が多様化し、地域交流センターに集う以外にも選択肢が増えたことによるものと推測している。収容能力等から全市的ではなく、地元施設としての用途が主で、現在使ってい

7 議第 三條市しらすぎ荘の指定管理者の指定について

Q 指定管理者の指定で公募に問題があると市議宛てに手紙が届いた。指摘されるような問題はあったのか。

A 審査は、応募のあった団体の申請書を所管課で精査した上、三條市外部委託等審査委員会設置規程に基づき選考し、公平、公正に行われた。

る団体以外の利用が見込み難いとした。

13 議第 令和3年度三條市一般会計補正予算

Q 今補正の子育て給付金は現金で5万円である。残り5万円の給付についての見解を伺う。

A 国の動向を確認し、判断する。

14 議第 PICK UP 令和3年度三條市一般会計補正予算

Q ふるさと三條応援寄附金推進事業費の寄附金の見込みと手数料の内容は何か。

A 寄附金額は前年同期との比較で約18.6%増だ。今回の補正で寄附額15億円ベースの予算確保を見込んだ。手数料はふるさと納税サイトの利用料およびクレジット決済等の手数料だ。

Q 歳出各款にわたる業務システム開発等委託料の委託業務の内容と委託業者は何か。

A 既存システムの改修を行うもので既存システムの開発企業に委託することになる。結果として株式会社RKKCSに委託する。

Q ふるさと三條応援寄附金の増額見込みと要因について伺う。

A 今年度は昨年比18.6%の13億4000万円を見込んでいた。10月以降、CMO(チーフ・マーケティング・オフィサー)を中心とした新たな取り組みの成果。

Q プロモーション業務委託料が計上されているが、どのようなことを行うのか。また、CMOとの役割分担を伺う。

A CMOの戦略を形にするために計上する。例として心を打つ紹介文の作成を委託したり、返礼品の写真撮影を委託する。

16 議第 令和3年度三條市一般会計補正予算

Q 国の保育対策総合支援事業費補助金を活用して保育士業務のICT化を行い、業務負担の軽減を図ろうとされているが、補助金をもらわない保育所は今後どうしていくのか伺う。

A 公立・私立ともに同一システムを使い導入コストを軽減したいと考えている。その上で今回導入しなかった施設においても導入意思が具体化していくものと考えている。

16 議第 令和3年度三條市一般会計補正予算

Q 補正予算で灯油代5000円の助成をされることは要保護世帯にとっては、本当に助かる支援だ。新潟県からは2500円の補助がある。1万円を助成する自治体もあるが、5000円を超える助成はできないのか。

A 令和2年11月から令和3年3月までの灯油1リットル当たりの平均価格が82円、令和3年11月の灯油平均価格が106.7円、この差は24.7円になる。1世帯当たりの平均年間灯油使用料172リットルで試算すると4248円の負担増が見込まれる。昨年との灯油の価格差を基に給付額を5000円とした。

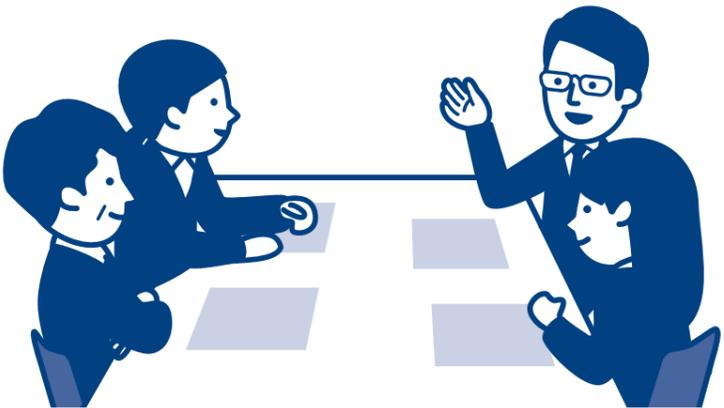
16 議第 令和3年度三條市一般会計補正予算

Q 高齢者施設、障がい者施設、児童施設など、福祉施設への助成は検討されたのか。

A 原油価格高騰の影響は福祉施設に限ったことではない。国においてエネルギー価格高騰の対応策が講じられていくものと捉えている。

Q 追加されるプレミアム付き飲食券の今後の追加販売について伺う。

A 現時点では考えていない。



ダイジェスト! 一般質問

12月定例会 一般質問ダイジェスト!

三條市の地域医療の今後について

Q 県央地域医療構想調整会議で県央基幹病院開院後の再編方針が決まった。再編後の病床数は全体で139床減少、そのうち急性期病床は4割も減少する。高齢化が進む中、安心して医療が受けられるのか三條市の受け止めはどうか。

A 県央基幹病院開院に係る再編で、県立燕労炎、三條総合、済生会三條等5つの病院を再編し、急性期手術機能は県央基幹病院に集約。済生会三條、県立加茂、県立吉田の3病院は地域密着型病院とし、高齢者医療中心の役割を担う。県の試算で今後の医療需要を満たす病床が確保され、医療従事者からも理解を得られた内容だと理解している。

補聴器購入費助成事業について

Q 補聴器購入費助成制度を行う自治体は県内で10市町村、全国で少なくとも40を超える自治体が導入した。これら自治体の中で年齢制限に上限を設けているところは三條市と見附市だけ。見直す必要があるのではないか。

A 三條市では令和3年1月に単身世帯要件を撤廃し、その後申請件数が増加。11月末現在で申請件数は31件となった。年齢制限については、他自治体の状況などを参考に検討している。結果について令和4年度予算案で示していきたい。



※写真はイメージです